



宇宙のデータブック

比田井昌英・寿岳潤・高瀬文志郎 著

1995年5月30日発行

早野竜五・高橋忠幸 訳

東海大学出版会, 79ページ, 1,545円

資料集

お薦め度

☆☆☆☆☆

人類の宇宙観は今世紀後半の目覚ましいロケットや人工衛星等の宇宙開発により根底から大きく書き換えられた。また、スペースシャトル等により人類の宇宙進出はより現実的な事実となった。同時に、宇宙科学は自然科学を象徴する分野の一つとして飛躍的に発展している。これに伴い、宇宙科学や天文に興味・関心を抱く人が増えている。

しかし、こうした科学技術の進展と情報に浸っているにもかかわらず、若者の理科への関心の低下が進む傾向にある。先進諸国に共通する理科離れは、深刻な現代病ともいえるが、自然科学の各分野において、歯止めの一石を投じる教材の開発が望まれる。

本書は、こうした状況の中での特効薬ともいえる。宇宙時代の到来による、人類のリテラシーとしての宇宙・天文に関する基礎が一冊に、しかもビジュアル化され、数式を使わずにコンパクトにまとめられているので、多様な使い方と幅広い読者が期待される。

本書を、大学の教養課程の講義資料として活用すると、たとえ文科系学生が対象であっても物理や数学の諸法則を基礎にして、科学的色彩を温存したまま、宇宙・天文に関する諸現象の理解と興味や関心を深めることに役立つであろう。

講義で、理解を深めるために示すデータや図等は、スライドやOHP、ビデオ等の視覚的情報として与えるのが普通であるが、いずれも学生の印象に深く残すことは難しい。本書に掲載された図表は、そうあってはならないものばかりが精選され、常にデータブックとして学生の手元に置くことができる。従って、いつでも、何回でも、容易に、

詳細なデータを示すことができるので、これほど便利なものはない。

大学の教養課程ばかりでなく、高等学校の地学における天文分野の補助資料として活用するのも有用であろう。さらに、宇宙・天文に興味がある方にとっても手元に置いておきたくなるデータブックであることはいうまでもない。

内容は、宇宙観の歴史、天球と暦、観測手段、太陽系、太陽、恒星、銀河系、地球外文明、銀河と宇宙の9章で構成されていて、各章は、まえがきにもあるが、分野における必要最小限のデータに絞り込まれ、簡単な解説が加えられている。各章の終わりは用語解説で締めくくられている。また、章末には、天文関連基礎データ、天文学関連年表、宇宙開発関連年表、天文学・宇宙科学入門書、図・表出典一覧、用語解説項目索引、図表項目索引があり、読者への繊細な配慮が感じられる。本書は1990年に刊行された前執の「天文・宇宙データブック」に改訂がなされ、表紙もカラーになり、1章「宇宙観の歴史」と8章「地球外文明」が加筆されたものであるが、一般の方にとって最も関心がある2項目が網羅されたことにより、一層興味深いデータブックとなった。

人類が構築した宇宙観と、それを支える最先端の宇宙科学の総合的理解と興味や関心を深めることができる良書といえる。掲載された図版や写真、表は宇宙に興味を持つ読者にとって、待望の鮮明なデータばかりであるので尚更であろう。本書は、宇宙への夢を膨らませてくれるデータブックなのである。

高橋典嗣 (明星大学)